

「昆虫の生態とその大切さを伝えられる学芸員になりたい」

入門先：富山市科学博物館

日時：令和4年8月9日（火）、23日（火）10:00～17:00

講師：岩田 学芸員

今回の入門では、展示の工夫、富山の魅力、展示パネルの作成方法、学芸員になるために必要なことなどを教えてもらいました。

まず初めに、館内にある展示物の解説や、工夫について教えてもらいました。

- 館内に展示されているものの中には、本物の木の切り株や、鳥や獣などの剥製が置いてあると聞きました。剥製が置いてあることは知っていましたが、本物の切り株が置いてあることは初めて知り、腐らないように保存してあることに驚きました。
- 鳥の展示では、展示されている鳥の声が聴けるようにボタンが設置されていて、子供が押してみたくなるようなしかけや、調べてみたくなるような展示がされていることが分かりました。
- 立山の展示では、ライチョウなどの生き物や植物などをまとめて展示するという工夫がされていて、立山の様子が一目で見て分かるようになっていることが分かりました。
- 自分で調べ学習ができるようにパソコンが置かれてありました。パソコンの解説には文字だけではなく、イラストや、写真などが使われていて、理解しやすいように工夫されていることが分かりました。



次に、富山の魅力について教えてもらいました。

● ギフチョウ

ギフチョウは、全国各地で自然破壊が進んだこと、昆虫マニアの人々によって沢山採集されたことなどから、絶滅危惧Ⅱ類になってしまった昆虫だそうです。現在ギフチョウは主に中部地方に生息しており、富山県では、まだ多く見られる昆虫であるとのことでした。これは、県外に住んでいる人にとっては、とてもうらやましいことであるとのことでした。僕はこの蝶が絶滅しないようにしたいと思いました。

- 富山県の自然の特徴

富山県は、『多雪』+『日本の中央』+『標高差大』+『西低東高』という特徴がある県だそうです。日本の真ん中に位置する県のため、東日本に住むクロオサムシと西日本に住むヤコンオサムシの両方が採集可能であるとのことでした。メスジゲンゴロウの西限は南砺市黒池までで、ベーツヒラタカミキリの日本海側北限は氷見市までとなっているとのことでした。標高差が大きいということは、海岸性昆虫から高山性昆虫まで、全部いるということだそうです。西部は暖地性種、東部は寒冷地性種が富山に住んでいるとのことでした。しかし、いろいろいるけれど採りにくいそうです。僕は、いろいろな昆虫が見られる富山県はいい所だなと思いました。

- 氷期があった証拠が残っている

蝶の仲間には、ミヤマモンキチョウとタカネヒカゲという涼しい所を好む蝶がいて、氷期にはこの2種類の蝶はあらゆるところにいたそうです。しかし、氷期が終わるとともに暖かくなり、富山では涼しい立山にだけ残った種類であるとのことでした。ここでも、富山の自然の豊かさを感じました。

展示パネル作りと標本について

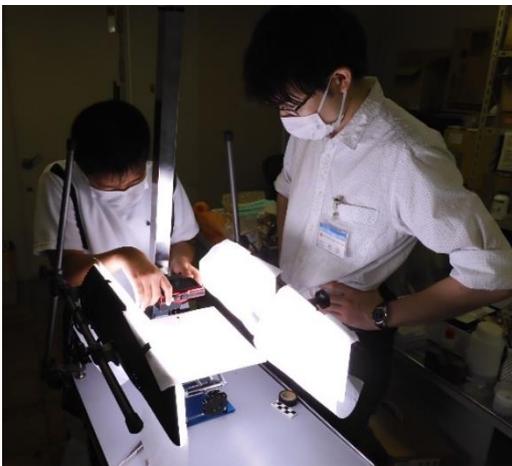
今回の入門では、僕がずっと研究を続けてきたゲンゴロウについてパネルを作り、標本と一緒に展示することになりました。

まず初めに、展示パネル作りをしました。展示パネルには、どのような構成でどのような項目を載せると良いかなど分からないことばかりでした。学芸員さんと話し、ゲンゴロウの特徴や飼育についてなど、ゲンゴロウの魅力について載せることに決めました。



パネルのそれぞれの項目には、載せる文字数に制限がありました。ゲンゴロウのどのような情報を入れるか、逆にどの情報を抜くかを考えることがとても大変でした。ゲンゴロウのことを知らないお客さんにも伝わるように文章を考えることも大変でした。また、書いた文章の主語と述語が合っているか等、文法の作りについても何度もチェックしました。それらのことを学芸員さんは1人で作り上げてしまうので、すごいなと思いました。

次に、展示パネルに載せる写真を撮りました。まず、写真を撮る昆虫にゴミが付いていないかを明かりを照らして確認し、ゴミがついていたら筆で払う、次にその昆虫を高さ調節できる台に乗せる、カメラをセットして昆虫にピントが合うところまで台を上げる、最後に明かりを昆虫に当てて写真を撮るという方法でした。写真を撮るだけでも、丁寧さが必要なのだと分かりました。



次に、パネルと一緒に展示する標本の準備をしました。僕が作った雄と雌のハイイロゲンゴロウの標本と、学芸員さんが作ったコシマゲンゴロウの標本の中から一番良い雄と雌の標本を選び、標本箱に入れました。学芸員さんが作成した標本は、昆虫針を正確にまっすぐ刺してありますが、僕が作った標本は傾いているので、今後もっと練習をしないとイケないと思いました。

展示パネルと標本が出来上がったら、実際にロビーに運んで展示しました。展示するときは標本が壊れないように運ぶこと等に気を付けました。



最後に、展示解説の体験をさせてもらいました。今回は館長さんや他の分野の学芸員さんに集まっていただき、僕の解説を聞いてもらいました。解説では緊張して、同じことを2回話してしまうなどよくわからない解説になってしまったので、人前で緊張せずに話せるようになりたいと思いました。



学芸員の仕事については知っているつもりでしたが、今回の入門では改めて、仕事内容や苦勞について聞きました。また、学芸員を目指すために必要なことも聞いてみました。

- 学芸員の仕事

資料収集、調査研究、展示、普及教育、予算要求資料作成、アルバイトのシフト作成、博物館実習生の受け入れ、友の会の会報作成と発送、などがあるそうです。僕はよくサイエンスライブを聞きに行きますが、とても解説が分かりやすいのでいつも凄いなあと思っています。

- 学芸員の仕事の苦勞

昆虫の担当の学芸員が1人しかいないため、仕事が殺到するとのことでした。昆虫の種類はたくさん存在するので、それを1人で調べなくてはならないことがとても大変そうだと思います。また、水晶岳付近の山岳調査が大変だったと聞きました。カールを降りて調査したり、雷など天候不順な中でも調査したりするため、学芸員は大変な仕事であるということが分かりました。



- 学芸員を目指すために必要なこと

学芸員さんからは、1年間に3本ほど論文を書いているという話を聞きました。僕は毎年自由研究をまとめていますが、その1つをまとめるだけでも大変なので、忍耐力や体力、精神の強さなど鍛えなくてはならないと感じました。

感想

今回の入門では、学芸員の仕事の一部を体験しただけでしたが、たくさんのお話を聞くことができました。

学芸員さんが伝えたいこととして、「昆虫は面白い生き物である。」
「昆虫は人間が生きていくために必要不可欠な存在である。」などの言葉がありました。昆虫のことだけでなく、自然が本当に好きだということが伝わってきました。僕も昆虫は好きですが、昆虫と人間との関係については学芸員さんの足元にも及ばないことが分かりました。また、「どんな学芸員になりたいか整理するとよい。」というアドバイスもいただきました。僕はもっと昆虫のことを学び、昆虫の大切さを伝えられる学芸員になりたいと思いました。

富山市科学博物館には昆虫担当の学芸員は1人しかいないため、仕事が殺到すると聞きました。それでも計画を立てて優先順位をつけて仕事を進めていると聞き、僕も見習わないといけないと思いました。さらに、去年の自分に負けないように頑張っていることなども聞きました。

これらの学んだことをふまえて、将来学芸員になりたいという夢に向けて頑張ろうと思います。

